

研究講習事業報告

学発番 学19-016

事業名： 臨床化学免疫血清研修会

日時： 令和元年5月28日（火） 18：30～20:00

場所： 京都保健衛生専門学校 視聴覚教室

主題1： 採血と各種採血管～標準採血法ガイドラインの改訂～

講師1： 中岡 啓一氏（極東製薬工業株式会社営業学術部）

主題2： 「生化学分析の基礎～分析装置の構造と反応過程ほか～」

講師2： 河端 俊彦 氏

（キヤノンメディカルシステムズ株式会社検体検査システム事業部学術担当）

参加数： 総数：29名（京臨技会員：26名）

報告者： 和田 香織（京都岡本記念病院）

以下、講演内容など

今回は、臨床検査技師が採血を行っている施設も多いことから、採血と採血管について、改訂された標準採血法ガイドラインを含めて講演頂きました。採血手技での注意点を丁寧に抑えつつ、採血管の特徴と検査結果に影響を及ぼす要因などを挙げられました。採血管は室温に戻す、溶血しにくくするために分注時は採血管を少し傾ける、バンピングでカリウム値は平均0.8mEq/L上昇するなどの注意点を解説していただきました。また、正しく採血された検体で、正しく分析出来るという流れで、続いて生化学分析装置の構造と反応過程についてご講演頂きました。

異常反応が出る要因に装置由来、試薬由来、検体由来などを挙げられ、まずは反応過程を確認することの重要性を話されました。また、日常メンテナンスを怠ることで検査結果にも影響するとお聞きし、自施設の運用を見直す良い機会となりました。

採血関係の講演は評判が良いと聞きましたが、生化学分析の基礎も合わせたことで、参加人数がいつもより多くなったようでした。今年度は基礎的な内容を中心に企画していますので、資料準備などにも配慮が必要だと感じました。